

「次世代機能性食品の評価技術基盤の構築」

—国際拠点を目指す神奈川県戦略—

(地独) 神奈川県立産業技術総合研究所 研究開発部 食品機能性評価グループ

グループリーダー 阿部啓子

研究員 亀井飛鳥、篠崎文夏

嶋田耕育、野原正勝

食は健康な生体を築き上げ、それを維持する上で限りなく重要であり、適正な食生活は“quality of life” (QOL) の向上に寄与し、生活習慣病を防ぎ、健康寿命を延ばす手段としても高い関心が寄せられている。わが国ではまもなく65歳以上の高齢者が人口の30%に達すると予想されており、健康を保ち、エイジング(加齢)に伴う生活習慣病の発症を遅らせる機能性食品の開発は国際的にも注目されている。本テーマの出口としては、科学的エビデンスに基づく商品を開発するための公的機能性評価システム機関を世界に先駆けて構築し、この日本発の領域を、学術的・産業的・社会的に発展させ世界に発信していくことにある。

食品の機能性についての評価システムはこれまでに確立されていない。そのため、医薬のシステムに準じた方法で評価せざるを得ない。しかし、食品の作用は薬とは異なって穏やかであることや健康人を対象とすることなどから、健康診断で使用される検査項目では評価が難しい。

神奈川県では健康寿命の延伸を目指して、健康(未病)や食品に関する研究を進めてきた。当グループでは10年にわたる食品機能性研究で作用メカニズムなどの基礎研究からヒトを対象とした介入試験まで実施してきた。その中で、新たな課題も見えてきた。さし迫って重要な課題として、ヒト加入試験システムの学術基盤の構築、健康人への安全性の検証と機能性評価技術の確立、食品による健康(未病)維持や発病遅延メカニズム解析、従来の健康診断・人間ドックで測定される項目以外の新たなマーカーの探索が挙げられる。

機能性食品の評価技術センター構想

